

No. 51	昭和59年12月20日発行 編集：後藤光男 〒591 堺市百舌鳥西之町1丁目98-2 陵南住宅1号棟116号 電話：(0722)57局7009番
ねじればね	発行：日本甲虫学会 〒658 神戸市東灘区御影山手2丁目19-8 大倉正文方 電話：(078)811局2706番 郵便振替口座 大阪9-39672番
December, 1984	

ラベル印刷のあれこれ (8)

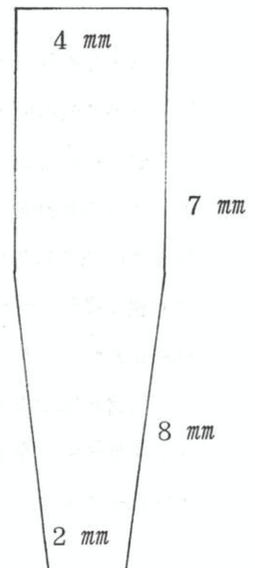
後藤光男

(V)

私は電動横打の和文タイプライター（日本タイプライター製、ネオライターエース、A-40）を使っている。この機種には盤面収容活字以外に735字の予備活字が付されていて、使用度の多い文字については、盤面の左右にある柵目各30文字に収容するようになっている。私は1柵目を必要に応じて使用する文字の分として常時空欄としているが、予備庫から引き抜く時はよいのだが、印書を終えて元の位置に戻す時に仲々手間取る。予備庫の活字は上向きで鉛色に光っており、字面は逆となっているので、どこだったかと位置を探すのに、よくまごつく。それで私は木片で活字と同じものを作って、できるだけ予備庫の盤面を見やすくしている。予備庫から盤面に移した活字は盤面の1-60の数字活字と差替えられるが、私はこの場合に移した活字と同じ木片活字を元のところに入れている。丁度日曜大工コーナーで、活字と同じ4mmのサワラ材の角棒があったので、これを少しく加工して上面にその字を印書した紙を貼り付けて使用している。これだと字面は逆でないの読み易く、鉛色面に処々白い活字が散ばっているので、これを目安に容易に元の位置に戻すことができ、今までのように手間取ることもなくなった。

活字は15mmの高さで上面は4×4mm、底面は2×2mmで上から7mmのところまで下に細まっている。私は柀目の4mm角サワラ材を15mmづつにカッターで切断し、7mmのところから下へカッターで細めて行く。サワラ材は非常に軟かくて細工が仕易いので、他の用具の作製にもおすすめできる木材である。

活字 × 5



(W)

複写機による縮小については本紙43号で述べたが、最近他のことで縮小をしてもらった結果、非常に認識不足であったことに気付いた。43号4頁の縮小見本はいずれも単片見本を縮小して、さらに比較に便なるよう貼合せたものであるが、私の手許にある複写機には縮小・拡大機能がない旧型のため、縮小・拡大について無知であったという以外に言葉がない。

縮小・拡大をする場合には近所のマイコン・ショップを利用しているが、この機種はシャープで、ほとんど配り物の見出しや、チラシを縮小してもらっていた。必要があってA4版に約8割方印書した案文2枚をB4 1枚に縮小してもらったが、中心線を基点として縮小されるのではなく、A3面がB4面に縮小されるため、中心線が右にずれるということが判った。これはシャープの機種でのことで、他のメーカーの機種については、まったく判らないが、A3の中心線にほぼ合わせるのなら、縮小率から逆算して印書の位置を替えねばならないと痛感している。

新機種の複写機は来年5月ごろに交換される予定なので、その時にもっと研究して見ようと心待ちしている。

仮製本仁己止与世天 (4)

後藤光男

(遠)

これまでに触れた「無線とじ」で一番肝心なことは、いかに背面を揃えるかである。かなり以前に知り合いの製本屋で見たのを思い出して、「ねじればね」の1-50号の総目録を作った機会に、この方法で背面を揃え製本した。各号ともごく一部を除いて1-4、5-8頁の組合せなので、4-5、8-9頁の背側を、ごく狭く貼り合わせるだけで、各冊の糊付はこと足りた。各号の背を揃えるのに書類整理箱の内側角を利用した。私の使っている硬質プラスチックの書類箱の蓋の内側2片に、背側にごく狭く糊付された「ねじればね」の各号の背面を長片に、地面を短片に揃えて、背・地をきっちり積み重ねて行くだけで、完全に揃えることができた。

何も書類箱でなくても、私製標本箱等を作った時に出来た切れ端の板片(巾30×厚6mm)の2片をL字型に釘で留め、下にベニヤ板を貼りつけて代用しても、結構背揃いができるものである。この方法は何も仮製本だけのものではなく、家庭内で紙類等を揃えるのに利用されると大変便利である。

新 入 会 員

住 所 変 更

— あ と が き —

昆虫学評論の年2冊発行が、ここ数年定着しているので、本誌もお蔭で前号で50号を数えました。しかし本誌への投稿が皆無の状態なので、頁を埋めるのに四苦八苦が実情です。

本誌50号までの総目次を私用に作って見ましたが、利用価値があると思いますので、本誌に組み入れました。すべて私が印書したもので、B5版をA5版に縮小して、さらにB5版に複写したものが原版であるため、見にくく読みづらいと思いますが、ご辛棒下さい。

印書の必要から和文タイプライターの盤面と予備庫にない活字をメーカーの貯蔵活字で補っていますが、専門用語と苗字にない場合が多く、その字だけ手書にしなければならないのも苦の種です。

本夏は例年になく厳しい暑さでしたが、珍らしく台風の上陸が一度もなかった仕合わせな年でもありました。しかし関西は異状渇水が続いていて、節水節水で年が暮れ、年が明けてゆくようです。天気長期予報では1,2月はやや暖冬とのこと、春が待遠しいものです。よき新春を迎えられるよう祈っております。(G)

「昆虫学評論」バックナンバー価格表

当会々報のバックナンバーの価格は下記のとおりです。なお、各巻の1号または2号の分冊売りはいたしません。この価格表は昭和60年12月末日までのものです。

第1巻第1号、第2号および第4巻第2号		全部で	300円
第6～10巻	各巻はそれぞれ1,000円	"	5,000円
第11～15巻	" 1,500円	"	7,500円
第16～20巻	" 1,500円	"	7,500円
第21～25巻	" 2,000円	"	10,000円
第26～30巻	" 2,500円	"	12,500円
(ただし、第30巻のみ購入の場合は3,000円)			
第31～35巻	" 3,000円	"	15,000円
第36～39巻	" 4,000円	"	16,000円

総目録：第1～10巻、第11～15巻、第16～20巻、第21～25巻、第26～30巻、第31～35巻をそれぞれまとめて購入される場合は、それに該当する総目録は無料で差しあげます。

なお、当該巻目録のみ希望の場合はそれぞれ200円、全部で1,200円です。

送料はすべて無料(学会で負担)です。

第40巻の会費は5,000です

昆虫学評論第40巻第1号は6月頃発行の予定です。同封の郵便振替用紙によって早い目にご納入下さるようお願いいたします。

価値ある標本をより高く

シーズンオフを迎えての標本の整理には、当学会によって永年の経験を生かして作られた、使い易いラベルのご利用をおすすめします。見本は本誌50号の6頁に掲載しています。紙質は90～110Kの上質白紙です。ラベル印刷用4.5ボ活字セットも新たに2組揃えました。

「ねじればね」の全号が揃います

本誌「ねじればね」は26号までが更半紙で27号より上質白厚紙となりましたが、印刷部数が「昆虫学評論」の発送部数を少しく上廻る程度しか印刷しておりませんので、最近号を除いてほとんど絶版です。一部の方々の要望によって絶版号の複写をして全号揃えています(原本の在庫がある号は原本)。複写号数によって単価が違います。

昆虫学評論は大倉まで、その他については後藤までご照会下さい。

ねじればね 総目次

号	発行年月日	旧号数	号	発行年月日	旧号数
1	1956 31, 4, ?	1,1	26	1968 43, 11, 30	
2	— 31, 12, ?	1,2	27	1969 44, 4, 29	
3	1957 32, 10, 20	2,1&2	28	— 44, 11, 25	
4	1958 33, 10, ?	3,1&2	29	1970 45, 7, 20	
5	1959 34, 10, ?	4,1&2	30	— 45, 12, 25	
6	1960 35, 6, ?	5,1	31	1971 46, 9, 1	
7	— 35, 9, 30	5,2	32	1972 47, 10, 1	
8	— 35, 10, 15	5,3	33	1973 48, 8, 25	
9	— 35, 12, 25	6,1	34	1974 49, 5, 31	
10	1961 36, 4, 28	6,1	35	— 49, 12, 25	
11	— 36, 8, 30	6,2	36	1975 50, 8, 30	
12	— 36, 12, 25	6,3	37	1976 51, 8, 31	
13	1962 37, 4, 30	7,1	38	1977 52, 10, 31	
14	— 37, 8, 25	7,2	39	1978 53, 6, 30	
15	— 37, 12, 25	8,1	40	— 53, 12, 15	
16	1963 38, 6, 30	8,1	41	1979 54, 6, 20	
17	— 38, 9, 30	8,2	42	1980 55, 5, 20	
18	1964 39, 4, 30	9,1	43	1981 56, 3, 20	
19	— 39, 8, 20	9,2	44	— 56, 9, 20	
20	— 39, 12, 20	9,3	45	1982 57, 1, 20	
21	1965 40, 4, 20	10,1	46	— 57, 6, 25	
22	1967 42, 1, 30		47	— 57, 12, 20	
23	— 42, 5, 31		48	1983 58, 6, 20	
24	— 42, 9, 30		49	— 58, 12, 20	
25	1968 43, 4, 30		50	1984 59, 6, 25	

編集部 (1963) 「ねじればね」の発行の巻号について 17:3

○ 編輯者 1~4号 河野 洋, 5~50号 後藤光男.

分 布 ・ 資 料

後 藤 光 男	1959	伊那市の食糞コガネムシ類	5 : 1
—	1960	大阪付近のダイコクコガネ属の産地	7 : 1-2
—	1961	福井県宇ヶ平の水生甲虫類	12 : 1-2
—	1961	岐阜県恵那市馬越のホソドロムシ科 甲虫類	12 : 2-3
—	1963	篠山川のドロムシ	17 : 1
—	1967	阿蘇草千里の食糞コガネムシ類	23 : 1
—	1975	灯火に飛来したセミ (2)	36 : 1
—	1980	奈良公園若草山の食糞コガネの知見	42 : 1-3
林 匡 夫	1956	玉押こがね兵庫県に産す	1 : 2
—	1964	Dr. Haafのアシナガゾウムシ属の研究	18 : 1-2
—	1964	Dr. Haafのアシナガゾウムシ属の論文 訂正・追加	19 : 1
河 野 洋	1956	獣糞に来ていたマメダルマコガネ	2 : 2
大 倉 正 文	1960	知床半島羅臼岳のオサムシ類	6 : 1

標 本 整 理

後 藤 光 男	1978	甲虫類の虫体表面に付着した汚物を 除く一方法	39 : 1-2
野 村 全	1962	ゲニタリヤ浸出液について	14 : 1-2

図 書 整 理

後 藤 光 男	1972	仮製本の仕方	32 : 3
—	1977	ボックスファイルについて	38 : 1-3, 4
—	1977	ポリパイプによる合本と製本	38 : 3
—	1981	会費の納入記録と受領図書整理の 一私案	44 : 2-4
—	1982	仮製本仁己止与世天 (1)	45 : 1-6 (2) 47 : 1
—	1983	— (3)	48 : 1-2 (4) 50 : 4

では9月中旬から、雨石山では10月中旬からと言うように出現に1月のズレがあるが、両地とも誘致のピークは10月下旬から11月にかけてである。雨石山においては厳冬期にも誘致されていることから、本種は年1化で秋に発生し成虫越冬するものと考えられる。雨石山において1979年11月と1980年11月の誘致された個体数に、極端な差のある原因は不明である。環境要因にはあまり差がないと考えられるので季候的因子による差と考えている。クシヒゲチビンデムシは常念岳においては低山～中山地帯下層に多く、4月下旬から6月上旬と10月中旬～11月上旬に誘致のピークがあり、6月下旬から7月中旬にかけてはほとんど誘致されていない。一方、雨石山においても10月に誘致のピークがあるが、5～6月頃にも散見された。しかし、5～6月のものは早のみであった。これらのことから推論すると、本種は常念岳では年2化で一部は夏眠するものがあり、雨石山では年1化秋に出現し一部は成虫越冬するものと考えられる。

雨石山のみに見られた *Catops* sp. A は個体数も多く、誘致の消長がヒレルチビンデムシとほとんど重なっており、両者は生態的にほぼ同じで競合しているが、当地ではヒレルチビンデムシの方が優位と考えられる。前記したように本種はヒレルチビンデムシに形態的にもよく似ているので、後者の記録については見なおしが必要ではないかと考えられる。

全体的に見ると雨石山におけるチビンデムシ類は、春期は比較的多くの種が、また秋から初冬にかけては多くの個体数（総個体数の7割）が誘致されている。 (続く)

新 入 会 員

住所変更



退会



昭和59年度 収支決算書

(自 昭和59年 1月 1日
至 昭和59年12月31日)

収入の部		支出の部	
会費	円 1,800,600	印刷費	円 1,818,000
バックナンバー代	231,600	通信費	196,210
別刷代	58,850	消耗品費	24,660
寄付金	5,000	大会費	18,600
函鑑印税*	92,061	雑費	3,400
雑収入	24,088	仮受金引当金	367,821
仮受金	367,821	前期繰越不足金	166,685
次期繰越不足金	15,356		
計	2,595,376	計	2,595,376

* 現在までに学会へ繰入れられた印税合計 2,258,343円

林 匡 夫	1961	三岐鉄道・三重県立博物館 「藤原岳の昆虫」	12:4
—	1962	近着の国外文献から (1)	13:2
中 根 猛 彦	1956	Schedl, K. E の「旧北区のPolygrammus属, キクイムシ類」 Machatschke, J. W Mimela属について (Scarabaeidae, Rutelinae)	2:2
—	1970	玉貫光一著・関口俊雄画「原色世界の甲虫」	30:5
大 倉 正 文	1969	Fauna Japonica 「Carabidae, Transcatipennes Group」 土生昶申著	28:5-6
—	1969	石田昇三著「原色日本昆虫生態図鑑II トンボ編」	28:7
—	1970	阪口浩平著「カメラで見る しぜん」	29:4
編 輯 部	1961	本会蔵書 (外国雑誌・出版物) 増加目録 (2)	11:1-4
—	—	(3)	15:1-4
—	—	(4)	19:1-4
—	1974	林 匡夫著「その生態的分布と系統学的関連に特に留意したヒメハナカミキリ属の総説的研究 1 - 4」英文	34:11

月 例 会

生 谷 義 一	1962	月例会前後	14:2-3
水 野 仲 也	1960	似たような話しを聞きませ	6:3-4
開 催 記 録	1-9 (1958)	4:3-4, 10-20 (1959)	5:3, 21-26
	(1960)	6:3, 27-29 (1960)	7:3, 30-32 (1960)
	9:3, 33-36 (1961)	10:5, 37-40 (1961)	11-5,
	41-42 (1961)	12-4, 43-47 (1962)	13:3-4, 48-
	50 (1962)	14:3-4, 51-52 (1963)	17:2
開 催 通 知	11:5 (1961), 12:4 (1961)		

会 員 異 動

名 簿	1957 昭和32年 3月31日現在	3 : 1-10
	1958 誤植訂正	4 : 3
新 入 会 員 :	4 : 2-3(1958) 5 : 2(1959) 6 : 2, 7 : 3, 9 : 2-3, (1960) 10 : 4, 11 : 4, 12 : 3, (1961) 13 : 1-2, 14 : 3, 15 : 4, (1962) 16 : 2-3, 17 : 2(1963) 18 : 2-3, 19 : 1, 20 : 1(1964) 21 : 1(1965) 22 : 1-2, 23 : 1-2, 24 : 1(1967) 25 : 1, 26 : 1-2(1968) 27 : 13, 28 : 8(1969) 29 : 4-5, 30 : 7(1970) 31 : 1-2(1971) 32 : 4-5(1972) 33 : 1-2(1973) 34 : 6, 35 : 4(1974) 36 : 1-2 (1975) 37 : 2-3(1976) 38 : 6(1977) 39 : 3, 40 : 3(1978) 41 : 2(1979) 42 : 8(1980) 43 : 8, 44 : 7(1981) 45 : 7, 46 : 9, 47 : 4(1982) 48 : 3, 49 : 3(1983) 50 : 5(1984)	
復 活・再入会 :	13 : 2(1962) 22 : 3, 23 : 3, 24 : 3(1967) 26 : 2(1968) 27 : 14(1969) 29 : 6(1970) 31 : 2(19 71) 32 : 5(1972) 36 : 3(1975) 37 : 4(1976) 38 : 8-9(1977) 42 : 8(1980) 43 : 8(1981) 50 : 5(1984)	
住 所 変 更 :	4 : 3(1958) 5 : 2-3(1959) 6 : 2, 7 : 3, 9 : 3 (1960) 10 : 4, 11 : 4, 12 : 3(1961) 13 : 3, 15 : 4(1962) 16 : 3, 17 : 2(1963) 19 : 1, 20 : 1(1964) 21 : 1(1965) 22 : 2-3, 23 : 2, 24 : 1- 3(1967) 25 : 1-2, 26 : 2(1968) 27 : 14, 28 : 9-10(1969) 29 : 5-6, 30 : 7-8(1970) 31 : 2-3 (1971) 32 : 5-6(1972) 33 : 2-3(1973) 34 : 7- 8, 35 : 4-5(1974) 36 : 2-3(1975) 37 : 3-4(19 76) 38 : 7-8(1977) 39 : 3-5, 40 : 3-4(1978) 41 : 2(1979) 42 : 8-9(1980) 43 : 8-9, 44 : 7 (1981) 45 : 7, 46 : 9-10, 47 : 4(1982) 48 : 3, 49 : 3(1983) 50 : 5(1984)	

改 姓・改 名： 16：3(1963) 23：2(1967) 25：2(1968) 32：6
(1972)

退 会： 4：3(1958) 5：3(1959) 6：2, 9：3(1960) 12：
(認定・除籍・除 3(1961) 13：3, 15：4-5(1962) 16：3, 17：2
名・死亡を含む) (1963) 18：3-4, 20：1(1964) 21：2(1965)
22：4, 23：2, 24：3(1967) 25：2, 26：2(19
68) 27：14, 28：10(1969) 29：6, 30：8 (19
70) 31：3(1971) 32：6(1972) 33：3(1973)
34：8, 35：6(1974) 36：3-4(1975) 37：4(19
76) 38：9(1977) 39：5, 40：4(1978) 41：2
(1979) 42：9(1980) 43：9, 44：7(1981) 45：
7, 47：4(1982) 48：3, 49：3(1983) 50：5(19
84)

転居先不明問合せ： 34：9(1974)

宛 名 カード： 34：9(1974)

収 支 計 算 書

30年度 1：4(1956) 31年度 3：11(1957) 32年度 4：4(1958) 33年度
5：4(1959) 34年度 6：4(1960) 35年度 12：5(1961) 36年度 14：4
(1962) 37年度 16：4(1963) 38年度 18：5(1964) 39年度 21：2(1965)
40年度 22：4(1967) 41年度 24：3(1967) 42年度 26：3(1968) 43年度
28：11(1969) 44年度 30：5・8(1970) 45年度 31：4(1971) 46年度 32：
8(1972) 47年度 34：10(1974) 48,49年度 36：5-6(1975) 50年度 37：5
(1976) 51年度 38：5(1977) 52年度 40：5(1978) 53年度 41：1(1979)
54年度 42：9(1980) 55年度 44：8(1981) 56年度 46：9(1982) 57年度
48：4(1983) 58年度 50：5(1984)

バ ッ ク ナ ン バ ー

昆 虫 学 評 論： 11：6, 12：6(1961) 15：5(1962) 17：3(1963)
20：4(1964) 25：3(1968) 26：3(1968) 28：12
(1969) 33：3(1973) 34：9, 35：10(1974) 37：6
(1976) 38：10(1977) 39：6(1978) 43：11(1981)
45：7(1982) 49：4(1983)

ねじればね： 48：4, 49：4(1983)

雑 録

- 会 名： 1：2(1956)
- 会 則： 9：4(1960) 12：7(1961)
- 会 費： 1：4(1956) 10：4, 12：3(1961) 14：3(1962) 16：2
17：4(1963) 18：4(1964) 22：5(1967) 25：4(1968)
27：7(1969) 29：6(1970) 31：4(1971) 32：7(1972)
36：4(1975) 37：6(1976) 43：9(1981) 45：8(1982)
47：6(1982) 49：4(1983)
- 投 稿 規 定： 39：5(1978)
- 展 覧 会： 6：2(1960)
- 交換・斡旋希望： 1：3(1956) 2：3(1957) 15：5(1962) 18：4(1964)
25：3(1968) 33：4(1973) 41：2(1979)
- 用 具・文 献： 7：3-4(1960) 10：5-6, 11：5-6, 12：5-6(1961)
13：4, 14：4, 15：5(1962) 16：4, 17：3-4(1963)
18：4,6, 20：2(1964) 22：5(1967) 27：15(1969)
32：7(1972) 34：11-12, 35：6-9(1974) 36：7-9
(1975) 38：10(1977) 39：6, 40：6(1978) 42：10
(1980) 43：12, 44：8(1981) 45：8, 46：10(1982)
47：5(1982) 50：6(1984)
- そ の 他： 1：3(1956) 2：3(1956) 6：4, 7：4(1960) 10：6,
12：6(1961) 16：2(1963) 22：5, 23：2(1967) 29：
6, 30：5(1970) 31：1(1971) 33：4(1973) 34：9
(1974) 39：6, 40：6(1978) 43：10 44(1981) 45：
8, 47：6(1982)
- 編 輯 後 記： 5：4(1959) 6：4, 9：4(1960) 12：6(1961) 22：6
(1967) 32：8(1972) 34：12, 35：10(1974) 36：10
(1975) 37：6(1976) 38：10(1977) 39：6, 40：6
(1978) 43：11, 44：8(1981) 45：8, 46：10, 47：
6(1982) 48：4, 49：4(1983)

◎ 発行年号・通巻号数・頁数又は通巻号数・頁数・発行年号で示す。